

【今日の説教から】

人にはそれぞれ価値判断の物差しがあり、「これだけは誰が何といおうと自分が正しい、譲れない」という思いがあるようです。互いにそういう思いでいる時、言い争いや戦いが起こるように思います。それは旧約聖書の士師記の最後の言葉にも表れています。

「そのころ、イスラエルには王がなかったので、おのおの自分の目に正しいと見るところをおこなった。」

神の民イスラエルには神様の目にかなうことを求めるという信仰が欠如していました。ですから人ははてんでバラバラでした。しかし人は神様の思いを謙虚に求めるのならば、その御心のうちに一つになれるのです。歴代誌下16章にこうある通りです。

「主の目はあまねく全地を行きめぐり、自分に向かって心を全うする者のために力をあらわされる。」

自分こそが正しい。そう確信をもって人生の難局に立ち向かうことは頼もしいことです。しかし私たちは誤りある弱き人間です。私たちは祈り求めて神様のお導きとお力を頂けるとしたら、どうしてそれにすぎること求めないことがあるのでしょうか。私たちは自分が世の中の裁判官であり、人を責める資格があると考える前に、神様の権威と知恵と力のもとに身をかがめ、将来のこと、未だ何も分からない未来のことを主の前に祈り求めながら進むときに、恐れも驕りもなく、なすべきことを果たしつつ力強く人生を進むことが出来るのではないのでしょうか。

皆様おはようございます。今日も秋晴れの美しい日となりました。今週から11月に入ります。あれよあれよと日が経ちますが、寒暖差の中、皆様お元気にお過ごしでいらっしゃいましたでしょうか。

私たちの心を探るヤコブ書を読み進めております。教会の暦も、「降誕節前第9主日」となりました。主のご降誕を待ち望む時、朝は暗く、秋の夕はつるべ落とし、寒さが増し加わる時ですが、それもクリスマスを境に底を打って明るさへと向かう時、私たちは温かな希望の到来を喜び、キリストイエスのご誕生の出来事に心も身体にも大きな励ましを頂いて進むことが出来ますから、神様に感謝いたします。

11 兄弟たちよ。互に悪口を言い合ってはならない。兄弟の悪口を言ったり、自分の兄弟をさばいたりする者は、律法をそしり、律法をさばくやからである。もしあなたが律法をさばくなら、律法の実行者ではなくて、その審判者なのである。

12 しかし、立法者であり審判者であるかたは、ただひとりであって、救うことも滅ぼすこともできるのである。しかるに、隣り人をさばくあなたは、いったい、何者であるか。

私たちは、自分が正しいと思うがゆえに、あの人は間違っていると軽々に判断します。そして互いにそうし合います。しかし聖書は、人を裁く私たち自身は果たして何者なんだろうかとの疑問を投げかけます。自分が裁判官気取りで高い所から人々を裁く。しかしそれは神様のお役割なのです。ですから私たちは神様気取りをしているのです。私たちは律法を守る側であって、律法を守らせる側ではないのです。弱い者が弱い者を導くことは出来ません。律法を犯してしまうものが律法を司る側に就くことは出来ません。

人にはそれぞれ価値判断の物差しがあり、「これだけは誰が何といおうと自分が正しい、譲れない」という思いがあるようです。互いにそういう思いでいる時、言い争いや戦いが起こるように思います。それは旧約聖書の士師記の最後の言葉にも表れています。

「そのころ、イスラエルには王がなかったので、おのおの自分の目に正しいと見るところをおこなった。」

神の民イスラエルには神様の目にかなうことを求めるという信仰が欠如していました。ですから人はてんでバラバラでした。しかし人は神様の思いを謙虚に求めるのならば、その御心のうちに一つになれるのです。歴代誌下16章にこうある通りです。

「主の目はあまねく全地を行きめぐり、自分に向かって心を全うする者のために力をあらわされる。」

立法者であり審判者であるかたは、ただおひとりなのです。私たちはこのお方を信じ敬い畏れるのです。このお方が救うことも滅ぼすこともおできになるのです。赦すも赦さないも、裁くも裁かないも、このお方次第です。そしてこのお方は、私たちが裁くことをせず、愛する御子イエスキリストによって私たちが赦し、罪から死から私たちが救い出してくださいましたのです。

神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。 ヨハネ3章16節

私たちはこの方を畏れ、その愛の窮まりを知って恐れ、ひれ伏して感謝し、このお方を賛美して敬い、感謝して仕え、自分が何者でもないことを悟り、謙遜にこのお方の前に、赦され、力づけられて進んでいくことが出来ます。

「立法者であり審判者であるかたは、ただひとり」というこの御言葉を今週も私たちは心に刻んで進み続けたいと願います。私たちは誰をも裁く立場にないということを心深くに味

わい、ただこのお方の前に膝をかがめて、自分は隣人を裁くべきものではなく、神様だけがただお一人法を定め、善悪を規定し、裁くべきお方であるということを何度も心に刻んで高ぶることのないように、自らの立場をわきまえ知ることが出来るようにと願います。あの人、この人のことを間違っているとか、理解していないとか、立場をはき違えているとか、未熟だとか、失礼だとか、傲慢だとか、そういう事が心をよぎったとしても、私も同類であり、どんぐりの背比べであり、それらの方々の事は慈しみ深い神様の御手に委ねて、私は自分の欠点を克服することに注力していけばそれでいいんだということを悟りたいと思うのです。

13 よく聞きなさい。「きょうか、あす、これこれの町へ行き、そこに一か年滞在し、商売をして一もうけしよう」と言う者たちよ。

14 あなたがたは、あすのこともわからぬ身なのだ。あなたがたのいのちは、どんなものであるか。あなたがたは、しばしの間あらわれて、たちまち消え行く霧にすぎない。

私たちはいろいろな計画を心に思いめぐらします。しかしそれらの事、将来どうこうするという事も、先ほど同様、私たちの出来る範囲の中にあることであるということを悟りたいのです。先々のことを私たちは分かりません。実は1秒先に何が起こるかも私たちには分かりません。ですから、私たちは神様の御手にへりくだるのです。

15 むしろ、あなたがたは「主のみこころであれば、わたしは生きながらえもし、あの事この事もしよう」と言うべきである。

16 ところが、あなたがたは誇り高ぶっている。このような高慢は、すべて悪である。

これは、高慢だと言われています。自分がどうこうと出来もしないのに、さも出来るように振る舞うな、身の程を知れということです。そういう厳しくも感じられる言葉ですが、これは言い知れぬ慰めの言葉です。

私たちは先のことが分かりません。様々の知恵にも及びません。すぐに有頂天になって自分が殿様気取りに成って裸の王様のように振る舞うのです。しかしそういう浅はかな者でも、そうして周囲の人の間で悪口を言い合ったり、裁いたり、不和と争いを生み出す輩に過ぎないのですが、大言壮語しながら、自分の足元さえ分からないものですが、未来の事もほとんど分からずお先真っ暗のものですが、すべてを分かっている下さる神様が共におられ、すべてを赦してくださる方が共にいて下さるのだということがここには記されているのです。だから人の悪口を言うな、裁くな、権威ある方の前に服し、赦しの恵みに感謝しなさい。そ

して先々の事を何も分からないのに公言するな、すべてをお見通しで、すべてを分かっておられるお方がいつも見守っていて下さることをこそ誇りとして進み、感謝から、信仰から、主の御前から出発しなさい、そうすればあなたの道は確かなものになるということを教えているのです。人の高慢は何の足しにもならず、謙遜と信仰こそ私たちの力であるということを今日の聖書は教えています。

17 人が、なすべき善を知りながら行わなければ、それは彼にとって罪である。このようにして、私たちには導きが与えられています。信仰と知恵が与えられています。そうして知らされることに対して、私たちは神様のみ旨を実行することが出来るとの特権を頂いています。その機会を無駄にしてはなりません。なすべき善が知らされているということは、私たちにとって何という幸いなののでしょうか。人生の地図も持たず、五里霧中、どこに向かったらよいかもわからず、罪と汚れのうちにさまよっていた、わが目だけが頼りの私を見出し、「なすべき善」が分かるようになったのですから、どうして私たちはその尊い機会を用いることをためらうことがあるのでしょうか。

「主の目はあまねく全地を行きめぐり、自分に向かって心を全うする者のために力をあらわされる。」

ヘブル 10:38 わが義人は、信仰によって生きる。もし信仰を捨てるなら、わたしのたましいはこれを喜ばない」。

10:39 しかしわたしたちは、信仰を捨てて滅びる者ではなく、信仰に立って、いのちを得る者である。

ヘブル 3:13 あなたがたの中に、罪の惑わしに陥って、心をかたくなにする者がないように、「きょう」といううちに、日々、互に励まし合いなさい。

3:14 もし最初の確信を、最後までしっかりと持ち続けるならば、わたしたちはキリストにあずかる者となるのである。

3:15 それについて、こう言われている、「きょう、み声を聞いたなら、神にそむいた時のように、あなたがたの心を、かたくなにはいけない」。

私たちは信仰に立ち、主の恵みにより命の中を、光の中を、希望の中を、主の御力によって生きていくことが出来るのです。主に感謝いたします。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。いつも私たちを見守り、力づけ、導き、見えない将来の日々に向かって、万全の主のご計画のうちに私たちを守り導いて下さり、私たちは恐れることなく日々進むことができますから、本当にありがとうございます。どうか今週も、私たちが傲慢のゆえに自分の目に見える所のみによって判断を下さず、神様の前に謙虚になって導きを願い、祈りながら進むことができますように。御心を求める私たちにあなたの御力を現してください。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン